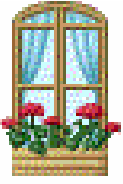


島根の地域医療

第1号 島根県健康福祉部医療対策課 05.Feb.01
e-mail: iryou@pref.shimane.jp
▲いつでもどこでも適切な医療が受けられる島根を目指して▼



事務局からこんにちは！

今回は、しまね地域医療支援センターが平成16年度に創設した「専門医養成プログラム」の第1号として公立邑智病院で診療されている久保田医師から、地域医療への思いを掲載しました。また、今回号から「研修医のページ」をリレー方式で開始します。

地域医療最前線その14

=専門医養成プログラム医師から=

自治医大卒業生として地元島根での義務年限を終え、新たな技術を習得しようと母校の麻酔科の門を叩いたのがちょうど3年前のことでした。

教授に快諾を戴き平成14年4月より2年半の間、大学の医局員として在籍させて頂き、手術麻酔やペインクリニックなど新しい知識と技術を学びました。

大学での多忙な勤務に少しずつ慣れ、ゆとりができたときにふと思い出したのは、義務年限中に勤務した地域の患者のことでした。新しい知見を得るたびに「この神経ブロックをあの患者にしてあげればよかったらうに。」などと力不足のまま僻地に赴いた自分を恥じていました。

何とかして地域に恩返しができる機会はないものかと考えていた折に、ちょうど島根県より医師募集の話があり、再び地域医療に携わる機会を頂きました。

まだまだ十分な力量を持ち合わせているわけではありませんが、今までの経験を活かし、さらに知識・技量をたかめ、少しでも地元の人々が健やかに生活できるよう努力したいと思います。

【邑智病院 久保田】



初期臨床研修制度が始まって

昨年4月から医師法の改正により2年間の初期臨床研修が必修化されました。この研修制度は、医師に十分なコミュニケーション能力やプライマリケアを中心とした診療能力を身につけ、かつ人格を涵養するために「ナリモノ」入りで導

入されました。

全国の臨床研修指定医療機関(h15:851施設で募集人員10,870人)と医学生(h15:参加者8,283人)がそれぞれの希望を出してマッチングを行い、その結果によって医学生が初期臨床研修先を選び、そこで2年間研修をします。3年目以降はそれぞれの希望により独自に次の研修先等を見つけることとなります。

島根県内には臨床研修病院が11施設(募集人数88人)あり、これらの医療機関で、現在47名の医師が1年次の研修をしています。

平成16年のマッチング結果によると平成17年卒業の研修医の42名が県内で研修医として勤務することになっています。

これらの制度は一方で、県内の各医療機関の医師確保に対して大きな影響を投げかけています。

まず第一は、2年間は大学医学部の各講座に医局員が入局しないことから大学から派遣されている医師が派遣できなくなっています。300床規模の中規模病院ですら、産婦人科、精神科、麻酔科、外科等の多くの診療科で大学派遣による医師確保が困難な状況になっています。

では2年後にはこれらの問題が解決するのでしょうか、それは研修医の2年目以降の動向に大きく左右されます。

特に2年目以降の研修医の多くが県外に流出することになると島根県内の医師確保は益々困難な局面を迎えることになります。

そのような状況にならないために、今こそ将来を見据えた医師確保対策を、医学生や研修医等の意見を踏まえ、島根大学をはじめ、県内の医療機関と協力しながら今後着実に進めていく必要があります。



【医療対策課 谷口】

研修医のページ その1

= 1年間の研修を終えて =

私は、1年間で救急・麻酔科、外科、内科系の順番でローテートしました。初めは手探り状態の中、救急外来・病棟で初期診療を学びました。

中央病院は1次から3次救急まで受け持つ病院なので、軽症から重症まで

さまざまな疾患を経験します。戸惑うことや、迷うことも多い初診の外来ですが、救急外来では上級医師に相談しながら、初歩的な診察の仕方から、手技・診断へのアプローチの方法を色んな科の先生から教えて頂きました。

内科系・外科系では主に、診断方法、検査手技、専門的治療、縫合や処置、術前/術後管理、画像診断等を学びます。もちろん、患者さんとのコミュニケーションから学ぶことは特に多かったです。

ドクターとコメディカルとのつながりも強く、看護師さんや検査技師さんから色々な指摘を受けつつ、何度も助けて頂きました。



中央病院は、完全電子カルテシステムという特徴があります。慣れるまでは多少時間がかかりましたが、過去カルテや処方・検査等の情報を迅速に得ることができ、慣れると診療の上で大変便利です。

ここでの研修は、自身の「やる気」次第で、科を超えてあらゆることを学べる病院だと思います。一人の患者さんをもつ疾患は一つではないし、学びたいという意志表示をすれば、何科の医師も快く対応していただい、とても勉強になりました。

残り1年、初心の意欲を忘れず充実した研修を送れるように、頑張っていきたいと思います。



【中央病院 岸本】

地域医療最前線その15

= 浜田医療センターの移転新築整備 =

県では、県民の皆さん誰もが、いつでもどこでも安心して医療が受けられるように、医療機能の確保・充実と医療機関の連携による効率的な医療提供体制の確立を目指しているところです。

国立病院機構浜田医療センターは、県西部の日本海沿岸部の浜田市にある354床の病院ですが、建物の老朽化と狭隘化が進んでおり、早期の移転新築整備が県や地元市町村の課題でした。

こうした中、昨年11月、国立病院機構において同センターの移転新築整備が方針決定され、いよいよ、念願だった新病院の整備が正式に動き出すこととなりました。

新病院は、JR浜田駅北側に移転することとなり、施設規模や医療機能等の詳細については今後決定されますが、これまで同センターが担ってきたがん、循環器等の急性期医療に加え、島根県成人病予防センターが実施していた検診やリハビリテーションの機能等が新たに加わったより総合的な医療機能をもつ病院となります。



知事と地元県議・首長による整備推進の会議

同センターでは、新病院をにらんで本年4月に救命救急センターの設置が予定されています。県では、平成21年度中のオープンが実現するよう、引き続き国立病院機構に対して働き掛けていくこととしています。



【医療対策課 持田】

県のドクターバンクから

求人・求職取扱状況

(平成17年1月17日現在)

< 求人 > 29件

邑智郡(病院) / 整形外科、精神科
 浜田市(病院) / 内科
 雲南市(病院) / 内科
 出雲市(診療所) / 胃腸科、肛門科
 邑智郡(病院) / 内科、整形外科、在宅医療
 隠岐郡(その他) / 不問
 鹿足郡(病院) / 内科、外科
 仁多郡(診療所) / 内科
 出雲市(診療所) / 在宅医療
 那賀郡(診療所) / 内科
 鹿足郡(病院) / 放射線科、内科、麻酔科
 益田市(病院) / 内科、循環器内科、神経内科、呼吸器内科
 松江市(病院) / 内科、麻酔科
 浜田市(病院) / 内科、放射線科
 江津市(病院) / 精神科
 仁多郡(病院) / 眼科、内科
 松江市(その他) / 不問
 八束郡(病院) / 内科、リハビリテーション
 松江市(その他) / 不問
 仁多郡(診療所) / 内科、小児科
 雲南市(病院) / 麻酔科、精神科
 出雲市(病院) / 内科
 松江市(その他) / 内科
 浜田市(その他) / 内科
 鹿足郡(病院) / 整形外科、内科、リハビリテーション
 松江市(病院) / 内科、整形外科
 邑智郡(病院) / 内科、整形外科、産婦人科、放射線科
 雲南市(病院) / 内科
 松江市(その他) / 不問

< 求職 > 1件

希望の担当科 / 精神科
 申し込み手続き及び詳細につきましては、当紹介所までお問い合わせ下さい。
 [電話番号]0852-21-8813(専用電話)
 [ホームページアドレス]
<http://www.shimane.med.or.jp/dcbank.htm>
 [担当: 吉岡・塩田]

～風に～吹かれて～10

このところ月に2回くらい、1泊2日程度地域の診療所の代診をしております。業務内容はそれぞれの診療所によって違いはありますが、一般的には外来診療(出張診療所も含めて)、往診、老人福祉施設の回診などです。

先日あるところへ代診で行き、1日目の診療を終えて宿に移動しようとした頃に携帯電話がなりました。老人福祉施設からで、入所者に緊急事態が発生したのですぐに来て欲しいとのことでした。行ってみますと、看護師さんと思われる方が一生懸命掃除機で口から吸引しておられ、食事を喉につめたのだと認識しました。脈も触れづらく、呼吸もほとんど停止したような状態でした。

一緒になって蘇生を試み、気管内挿管も準備しましたがそこまでせず循環呼吸状態、意識も回復しました。経

皮的酸素飽和度が低めということもあり、病院で経過を見たほうが良いと判断し、救急搬送いたしました。

しばらくぶりに救命の現場で仕事をさせていただきました、よい緊張感を持つことができました。また施設の看護師さんたちがてきぱきと働いておられる姿を見て、地域でこういう人達と一緒に頑張る医師を確保することの重要性を改めて感じました。



【医療対策課 木村】

None Blue Rose

平成16年島根県政十大ニュースが昨年末に発表されましたので紹介します。

1位: 県内各地で市町村合併が進み、新市長が誕生 2位: 中期財政改革基本方針の策定 3位: 「中国04総体」をはじめとするスポーツの祭典での活躍が与えた多くの感動 4位: 島根県総合計画策定 5位: 着々と進む道路ネットワークの整備 6位: 地域医療の充実に向けた取り組みの進展 7位: 地域課題の解決に向けて、25年ぶりの新税導入を決定 8位: 産業振興に向けた「テキサスの技術交流」や「企業立地」の取り組みの進展 9位: 「しまね花の郷」開園(県内初の指定管理者制度を導入) 10位: 「しまね教育ビジョン21」を策定 特別: 中海の諸課題解決に向けて島根・鳥取両県大筋合意

しまねの地域医療施策は、十大ニュースで取り上げられましたが、島根県総合計画における「優先施策」でも「優れた医療従事者の確保」「医療機能・施設の充実」が上位にランクされ住民の皆さんの高い関心事となっています。

気を引き締めてしまねの地域医療の確保に努めてまいります。

Itaru

青い薔薇は園芸家の夢。藤紫、明藤色はあっても真の青はないとのことでBlueRoseは不可能という意味。NoneBlueRoseは私たちの地域医療への熱いメッセージです。

しまね地域医療支援センターの連絡先
 (島根県庁医療対策課)
 E-mail: iryu@pref.shimane.jp
 TEL: 0852-22-5251
 FAX: 0852-22-6040
 ホームページ [島根の医療]:
<http://www.wah.pref.shimane.jp/med/>



乳がん検診車導入検討

山間・離島の受診容易に マンモグラフィ搭載

県健康福祉部は乳房エックス線(マンモグラフィ)装置を搭載した乳がん検診車の導入を目指している。

山間部や離島は同装置のある医療機関が近くなる、乳がん死亡率が高まる中、実現すれば医療過疎地の乳がん検診の充実が図られる。

県内では、市部を中心に18医療機関でマンモグラフィ検診を受けられるが、山間部では移動に時間がかかるため、実施を見送るケースがほとんど。昨年3月時点で同検診を予定した市町村は59団体のうち19団体にとどまった。

検診車は検診を実施する県環境保健公社が所管し、依頼のある自治体に派遣する。同部は検診車の整備費用として約3千万円を予算要求している。

【山陰中央新報 05.1.7 より抜粋】